

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200122		
法人名	株式会社ハウスマガダ		
事業所名	グループホーム瀬名川 1F		
所在地	静岡県静岡市葵区瀬名川1丁目10-20		
自己評価作成日	平成24年8月10日	評価結果市町村受理日	平成24年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kihon=true&JigyosyoCd=2294200122-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成24年10月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護職員が介護の仕事に日々前向きに取り組めるように、充実した環境作りをしている。利用者様も高齢化、重度化しており、職員の資質の向上、ホーム内の環境整備の見直しを考えている。職員にとっても利用者にとっても快適に1日を過ごせるように、安心、安全を目標に考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は閑静な住宅地の一角にあり、敷地も広く建物内も広くゆったりとして明るい。窓からは隣家の生活も目に入り地域の方々とふれ合いのある環境での運営をめざしている。職員と管理者は理念である「共に生きる」ことを熟知し、入居者の方と毎日を楽しく前向きに過ごすことに支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく、一人一人の暮らしが継続できるように理念を作り上げている。	理念「共に生きる」は管理者が独自に作ったものである。入居者と職員がどちらも主役になる介護をめざしている。職員には機会がある毎に説明、話し合いの場を作り、スキルアップに繋げるよう工夫をしている。理念は玄関、居間に掲げてある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人たちとの話し合いの場、交流の場として事業所を提供している。	町内会長自らデイサービスの送迎運転、中庭にある広い畑の手入れ等協力をしてもらっている。デイサービスの休日には町内の行事に部屋を提供しているため、地域の人々から感謝されている。また事業所主催のお祭りには多くの住民が集まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々の意見に耳を傾け協力できることは協力し、気軽に立ち寄ってもらえるように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	議題に出た問題等を職員が全員で共有している。	運営推進会議は家族、町内会長、民生委員、地域包括センター等多くの参加があるが、年2回の開催に止まっている。利用者の状況、防災安全対策、介護保険の改正、行事について活発に意見交換している。議事録は欠席した家族に便りと一緒に送付し、職員には回覧で情報共有している。	年2回運営推進会議を開催し、又、イベント、行事で小会議を行っていますが、基準省令で年6回の開催が定められていますので開催する事が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政には疑問点などが生じたときには常に気楽に相談や質問をしている。	少しでも疑問が生じた時は行政に相談、アドバイスを受けている。行政から研修等の案内を受けると職員のタイムカード入れの前に提示し、出席できる職員に参加させている。参加費用の助成がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては家族会で話し合い、安全面を優先している。チャイム音で職員が気づく対策と併用している。	玄関、居間に「拘束0宣言」を掲示している。職員は一人ひとりの癖、嫌な事を把握し、拘束の弊害を理解して個別の対応をしている。玄関の施錠は家族会で話し合い決定している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者及びケアマネージャーが施設内を巡回し虐待防止に努め、職員等の意見を聞いている。		

静岡県(グループホーム瀬名川 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族様より質問を受けた際は制度内容を説明をして、専門家を紹介している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約は管理者・ケアマネージャーが説明をし、入所および退去の際は事務員が手続きをする。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者及びケアマネージャーが面会等にいられたご家族様に色々話を聞くようにしている。ご家族様から出た意見や要望を職員に伝えている。	各階のリーダーはフロア全体の入居者の意見集約を行っている。入居者、家族、ケアマネージャー、職員は良い関係作りのため、気軽に意見や要望が言える雰囲気作りをしている。重要事項説明書にて第三者苦情申し立て機関の説明もしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見、提案に耳を傾け話し合いの場を設け尊重している。	職員の多い時間帯に全体会議を開いている。活発な意見交換や要望、提案を聞いている。管理者はリーダーや職員個人に日頃困っている事を問い、働く意欲やサービスの質の向上に繋げる工夫をしているが、反映には至っていない事もある。	入居者が高齢化し、職員はケアカンファレンスの拡充等の必要性を感じているが、管理者は全体会議の意見を反映し、質の高いケアが実現できるよう期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は常に勤務状態を把握し、社労士に相談をしている。職員に向上心を持ってもらえるように資格より人格を考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	時間の許す限り研修等に参加をし、介護職員についても常に向上心を持つように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設職員にも来所してもらい、私たちも交流のある施設に訪問をして意見交換等をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にフェースシートをよく読み確認し、ご家族様からも情報を聞き、基本理念を大切にされた対応をとっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からお話を聞き、課題等を主治医にも報告して助言を受け、支援に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	外部ケアマネージャー、施設ケアマネージャー、相談員が話し合いをして支援内容を考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護職員と信頼関係を築けるように、尊敬の念で介護、お手伝いをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の安心安全はもとより、職員の安心安全を考えることが利用者様とご家族様との絆がなお一層深まると考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご友人のかたには極力面会に来て頂くようお願いをして、ご本人の体調を見ながら来所頂いている。	高齢化に伴ない楽しみであった散歩も参加したくないと言う入居者が増えている。馴染みの理美容院にもこれまでの支援が難しくなり断られた。理美容院へは家族が付き添い等対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人の話をよく聞き、全体的に交流をするように配慮している。当施設には併設しているデイサービスがあるためうまく活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様と協力をし合い、対応に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様との話し合いのもと、ご本人の意思意向を把握し、できるだけ添えるように努めている。	家族や本人から今までの生活歴を聞き趣味、好きな事、得意であった事等できるだけ意向に沿える様に努めている。又職員は日頃から入居者同志の会話やしぐさ、表情から本人の意思、意向を見逃さないよう努め、引継ぎノートに記入し情報共有を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から今までの生活歴等お聞きして、その他関わりのあった方々から情報を集め(フェースシート)内容を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	管理者・ケアマネージャーが施設内を巡回して相談報告を受けている。記録にも目を通し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	診療情報提供書やアセスメントシートをもとにチームで検討する。	ユニットごとに入居者を3人ずつ担当者を決め、気付きや意見をリーダーに提出している。ケアマネージャーは入居者の気持ちを聞き取り、介護計画書を作成している。作成した計画書は家族に送付し説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の情報を職員から報告受け、ケアマネージャーと計画作成担当者が介護計画を検討していく仕組みになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	イベント等を施設内で考え、ご家族様にも理解してもらい、協力してもらい孤独にならないように支援している。		

静岡県(グループホーム瀬名川 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内、地域の方々に協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医療機関を説明してご家族様には納得して頂いている。専門医に関しては当施設の主治医のもとで対応している。	入居の時に協力医療機関を説明し、納得するとかかりつけ医から紹介状が提出される。月2回の往診は家族、利用者には心強く感じられている。他の専門医の受診は家族が同行し、出来ない場合は職員が同行する。受診情報は口頭、又は通院結果報告書を家族に送付している。全職員は情報を共有し支援につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービス看護師が定期的に健康チェックを行っている。また、協力医療機関の看護師とも連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医の指示のもと専門的医療機関と連携をとり、ご家族様に情報提供等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の指示のもと支援している。入居時において指針を明記した文書をご家族様に渡し、理解を深めてもらっている。	重度化や終末期は本人家族は大きな関心と不安の一つであるので、職員と協力医療機関の連携が密である事を家族に説明、指針を明記している。看取りは医師の指示の下行われ、管理者は職員の心のケアに関しても配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網や緊急時の対応マニュアルを作成しており全職員で共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方にも協力を頂いている。対応マニュアルがあり職員が内容を熟知している。	災害に際して地域住民、消防署、警察署に協力を依頼している。職員や家族への連絡方法のマニュアルは目の付く場所に掲示しており、消防法に基づく訓練と自主訓練は行なっているが入居者の高齢化が進む中、職員は不安な気持ちも増している。備蓄は2日分ある。	高齢化が進む中で、職員が自信を持ち対応出来る様、昼夜、季節、地震、水害等具体的な想定訓練を行う事を期待する。また、ヘルメット等の設置もすぐに装着できる場所に置くなどの工夫も望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を尊重しながら、かつ尊敬の念を心掛け支援している。	職員や管理者は入居者に年長者として敬意を払い、呼び名もその人が一番喜ぶ言葉かけを行い、入居者のそれぞれの目線に合わせた支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ノーマライゼーションの理念のもと、なるべくオープンな介護の場の提供を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	アセスメントとケアプランのもと基本的な介護を行い、職員の思いこみケアをしないように職員同士で話し合いをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の意思やご家族様の意見を取り入れた援助をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域のスーパーマーケットに職員といっしょに買出しに行ったり、いっしょに準備をしたり、本人の残存能力を生かした生活環境を考えている。	食材の買物や支度が出来る入居者は参加してもらっている。食事形態は、ミキサー食、刻み食等、入居者の状態に応じ提供し、職員はゆったりと寄り添って介助している。入居者が食器の片付けを自然体でしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の把握をし、状態に合わせた対応をして必要な量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・就寝前の口腔ケアの実施。ひとりひとりにあわせた口腔ケアの実施。		

静岡県(グループホーム瀬名川 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを職員が把握をし(排泄表にて)、声掛け誘導している。	職員は一人ひとりの習慣やパターンを把握し、誘導支援をしている。紙オムツから布パンツになった入居者もいて、自信の回復、身体的機能を高める事に繋げている。羞恥心や不安への配慮、プライドを傷つけない支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表をもとに体調を把握し、散歩、水分補給、食の改善等に日々取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望やタイミングを考慮しながら入浴の声掛けを行い、気持ちよく入浴して頂けるようにしている。	入浴は原則的に1日おきであるがその時の希望や、体調を考慮し変更も可能である。又自分の好みのシャンプー、リンスを使いたい等利用者の意向に沿い支援している。入浴を拒む人には強要せず職員の言葉掛けの対応を工夫し、タイミングを見計かって入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の自由を尊重し、休憩の環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、薬剤師の指導のもとですべて個人ファイルにデータを綴っており、いつでも確認把握ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員が意見を出し合い、その人にあった楽しみが提供できるようにスケジュールを組んだり、取り組みの提案をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の体調を考慮しながらドライブや散歩、買い物の支援をしているが、ご家族様の協力も頂いている。	希望に沿い個別の買物、外食等に付き添っている。また近所を散歩したりしている。遠出をする時は、家族の援助も受けている。	

静岡県(グループホーム瀬名川 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の力に合わせてお金を使えるようにし、金銭管理能力が低下しないように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意思を尊重して、できるだけそのようなやりとりが続けられ、楽しみを持っていただけるように対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気作りを工夫している。中庭にて四季折々の野菜を収穫できるように家庭菜園を設けている。	共有空間は広々として採光も良く掃除もゆき届いている。入居者は好きな所でゆったりと過ごし、職員が寄り添って話を聞いている。中庭の畑には四季の野菜が収穫できる。廊下にも長椅子が置かれ、職員と一緒に作られたちぎり絵や飾り物も置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールを開放して利用者様同士が自由に利用できる居場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人とご家族様に、なじみのものを引き続きグループホームでも使ってもらえるように、入居時に声をかけている。	一人ひとりの部屋には家庭で使われていた馴染みの物が置かれている。家族写真や入居者が作られた作品も飾られ、その人らしく落ち着いて安心して過ごせる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力が低下しないように、安全には配慮しながら、残存能力が保てるような環境づくりをしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200122		
法人名	株式会社ハウスマガンダ		
事業所名	グループホーム瀬名川 2F		
所在地	静岡県静岡市葵区瀬名川1丁目10-20		
自己評価作成日	平成24年8月10日	評価結果市町村受理日	平成24年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kihon=true&JigyosyoCd=2294200122-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成24年 10月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護職員が介護の仕事に日々前向きに取り組めるように、充実した環境作りをしている。利用者様も高齢化、重度化しており、職員の資質の向上、ホーム内の環境整備の見直しを考えている。職員にとっても利用者にとっても快適に1日を過ごせるように、安心、安全を目標に考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく、一人一人の暮らしが継続できるように理念を作り上げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人たちとの話し合いの場、交流の場として事業所を提供している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々の意見に耳を傾け協力できることは協力し、気軽に立ち寄ってもらえるように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	議題に出た問題等を職員が全員で共有している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政には疑問点などが生じたときには常に気楽に相談や質問をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては家族会で話し合い、安全面を優先している。チャイム音で職員が気づく対策と併用している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者及びケアマネージャーが施設内を巡回し虐待防止に努め、職員等の意見を聞いている。		

静岡県(グループホーム瀬名川2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族様より質問を受けた際は制度内容を説明をして、専門家を紹介している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約は管理者・ケアマネージャーが説明をし、入所および退去の際は事務員が手続きをする。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者及びケアマネージャーが面会等にいられたご家族様に色々話を聞くようにしている。ご家族様から出た意見や要望を職員に伝えている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見、提案に耳を傾け話し合いの場を設け尊重している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は常に勤務状態を把握し、社労士に相談をしている。職員に向上心を持ってもらえるように資格より人格を考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	時間の許す限り研修等に参加をし、介護職員についても常に向上心を持つように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設職員にも来所してもらい、私たちも交流のある施設に訪問をして意見交換等をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にフェースシートをよく読み確認し、ご家族様からも情報を聞き、基本理念を大切にした対応をとっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からお話を聞き、課題等を主治医にも報告して助言を受け、支援に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	外部ケアマネージャー、施設ケアマネージャー、相談員が話し合いをして支援内容を考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護職員と信頼関係を築けるように、尊敬の念で介護、お手伝いをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の安心安全はもとより、職員の安心安全を考えることが利用者様とご家族様との絆がなお一層深まると考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご友人のかたには極力面会に来て頂くようお願いをして、ご本人の体調を見ながら来所頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人の話をよく聞き、全体的に交流をするように配慮している。当施設には併設しているデイサービスがあるためうまく活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様と協力をし合い、対応に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様との話し合いのもと、ご本人の意思意向を把握し、できるだけ添えるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から今までの生活歴等お聞きして、その他関わりのあった方々から情報を集め(フェースシート)内容を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	管理者・ケアマネージャーが施設内を巡回して相談報告を受けている。記録にも目を通し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	診療情報提供書やアセスメントシートをもとにチームで検討する。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の情報を職員から報告受け、ケアマネージャーと計画作成担当者が介護計画を検討していく仕組みになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	イベント等を施設内で考え、ご家族様にも理解してもらい、協力してもらい孤独にならないように支援している。		

静岡県(グループホーム瀬名川2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内、地域の方々に協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医療機関を説明してご家族様には納得して頂いている。専門医に関しては当施設の主治医のもとで対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービス看護師が定期的に健康チェックを行っている。また、協力医療機関の看護師とも連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医の指示のもと専門的医療機関と連携をとり、ご家族様に情報提供等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の指示のもと支援している。入居時において指針を明記した文書をご家族様に渡し、理解を深めてもらっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網や緊急時の対応マニュアルを作成しており全職員で共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方にも協力を頂いている。対応マニュアルがあり職員が内容を熟知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を尊重しながら、かつ尊敬の念を心掛け支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ノーマライゼーションの理念のもと、なるべくオープンな介護の場の提供を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	アセスメントとケアプランのもと基本的な介護を行い、職員の思いこみケアをしないように職員同士で話し合いをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の意思やご家族様の意見を取り入れた援助をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域のスーパーマーケットに職員といっしょに買出しに行ったり、いっしょに準備をしたり、本人の残存能力を生かした生活環境を考えている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の把握をし、状態に合わせた対応をして必要な量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・就寝前の口腔ケアの実施。ひとりひとりにあわせた口腔ケアの実施。		

静岡県(グループホーム瀬名川2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを職員が把握をし(排泄表にて)、声掛け誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表をもとに体調を把握し、散歩、水分補給、食の改善等に日々取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望やタイミングを考慮しながら入浴の声掛けを行い、気持ちよく入浴して頂けるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の自由を尊重し、休憩の環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、薬剤師の指導のもとですべて個人ファイルにデータを綴っており、いつでも確認把握ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員が意見を出し合い、その人にあった楽しみが提供できるようにスケジュールを組んだり、取り組みの提案をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の体調を考慮しながらドライブや散歩、買い物の支援をしているが、ご家族様の協力も頂いている。		

静岡県(グループホーム瀬名川2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の力に合わせてお金を使えるようにし、金銭管理能力が低下しないように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意思を尊重して、できるだけそのようなやりとりが続けられ、楽しみを持っていただけるように対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気作りを工夫している。中庭にて四季折々の野菜を収穫できるように家庭菜園を設けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールを開放して利用者様同士が自由に利用できる居場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人とご家族様に、なじみのものを引き続きグループホームでも使ってもらえるように、入居時に声をかけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力が低下しないように、安全には配慮しながら、残存能力が保てるような環境づくりをしている。		